

平成24年7月30日

平成24年度 関東東海北陸農業試験研究推進会議
作業技術部会 現地研究会
開催要領

関東東海北陸農業試験研究推進会議
作業技術部会 部会長 細川 寿

1. 趣旨

担い手農業者の高齢化と減少が急速に進行する中で、土地利用型農業では、規模拡大と生産コストの低減を可能とする2年3作体系の提示と実践は重要な課題である。一方、大規模生産組織においても、収益の安定、労力の有効利用のためには、野菜の導入等も重要な課題である。

耕うん同時畝立て技術等の麦・大豆への汎用利用の取り組みが行われている長野県において、水稻直播の取り組み、野菜作導入、ITの導入等に関し「大規模生産組織における水田輪作体系の現状と課題、作業技術面からの取り組み」のテーマで、関連する現地事例と話題提供を通じ、生産者との意見交換を行い、生産現場の課題解決に向けた今後の推進方策や研究の連携を進める。

2. 開催日時

平成24年9月3日（月）13時10分 ～ 4日（火）12時

3. 開催場所

- 1) 1日目（9月3日） 現地検討（長野県大町市および松本市生産組織他）
- 2) 2日目（9月4日） 室内検討（松本東急イン 長野県松本市）

4. 検討内容

テーマ 「大規模生産組織における水田輪作体系の現状と課題、作業技術面からの取り組み」

1) 現地検討

- (1) 水稻作偏重地域における省力低コスト栽培（エアアシスト水稻直播）、大豆連作体系における帰化アサガオ類の対策（大町市常盤）
- (2) 大豆およびそばの耕うん同時畝立て栽培、加工トマト等野菜類を導入した地域営農、傾斜地および下層礫層地帯における農業機械化体系（松本市 小赤営農組合他）

2) 室内検討（松本東急イン 会議室）

(1) 話題提供

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| ①長野県における立地条件の特徴、水田輪作の現状と課題 | 長野県農業技術課 主任専門技術員 |
| ②長野県における大規模経営体に対応した機械化作業体系 | 長野県農業試験場 作物部 土屋 学 |
| ③大規模水田営農経営が必要とする機械化体系 | 長野県大規模水田輪作生産者(調整中) |
| ④ITを利用した水田輪作体系の現状と方向 | 中央農研作業技術研究領域 玉城勝彦 |

(2) 総合検討

テーマに関する各県の現状と課題に関する報告と担い手生産者を交えた意見交換

3) その他

5. 参集範囲

関東東海北陸地域公立試験研究機関・行政普及部局、農水省農林水産技術会議・生産局、関東農政局、東海農政局、北陸農政局、生産者、農研機構の関係者、その他部会長が認める者

6. 連絡先

〒305-8666 茨城県つくば市観音台3-1-1

中央農業総合研究センター 作業技術研究領域 屋代 幹雄

Tel : 029-838-8812 Fax : 029-838-8538 E-mail : myashiro@affrc.go.jp